

資料

## 学生へのアンケート結果からみた「保健学習」の実状

小松 茂美

Current Issues and Problems of Health Education Based on a Questionnaire  
Survey to Students

KOMATSU Shigemi

### 要 旨

保健分野の学習の成果として、自身の心身の健康を管理・改善し維持増進していくことができる資質能力と実践力を身につけていることが求められる。そして、高齢になっても介護を必要とせず健康に日々を過ごせる健康づくりは、高齢者本人だけでなくその家族にとっても重要な課題である。一方、子どもたちには、生活様式の変化等により複雑で多様な健康面の課題が出現している。このような状況のもと、現代は私たち一人ひとりが、生涯を通して健康に過ごすためにどのような取り組みが必要なのかを理解し、実践力を身につけることが、強く求められている時代である。そこで、保健学習に関する意識調査を大学生に実施し、先行研究のデータも参考に保健学習の実状と、保健体育の教員を目指す大学生に何かメッセージを発することができるのか、分析と考察を試みた。

### キーワード

保健の目的    保健学習に関する意識    保健の授業実践    保健体育の教員

### 目 次

- I. はじめに
- II. 「保健」の目的について
- III. 「保健学習」の実状
- IV. まとめ

文献

資料

## I. はじめに

平成28年度版高齢社会白書<sup>1)</sup>(以下、同白書という)によると、平成27年10月1日現在、我が国の総人口に占める65歳以上人口の割合(高齢化率)は26.7%、「65～74歳人口」(前期高齢者)の総人口に占める割合は13.8%、「75歳以上人口」(後期高齢者)の総人口に占める割合は12.9%であり、高齢者1人に対して現役世代(15～64歳)2.3人という状況である。そして、平均寿命は、平成26年現在、男性80.50年、女性86.83年である。

同白書の健康・福祉面の資料を見てみると、平成25年における65歳以上の高齢者の有訴者率(人口1,000人当たりの「ここ数日、病気やけが等で自覚症状のある者(入院者を除く)」の数)は466.1と半数近くの人が何らかの自覚症状を訴えている(図1)。

また、日常生活に影響のある者率(人口1,000人当たりの「現在、健康上の問題で、日常生活動作、外出、仕事、家事、学業、運動等に影響のある者(入院者を除く)」の数)は、平成25年において258.2と、有訴者率と比べるとおよそ半分になっている(図2)。その内容の具体的状況は、図3のとおりである。

そして、同白書によると、高齢者の要介護者等数は急速に増加しており、65歳以上の要介護者等認定者数は平成25年度末で569.1万人であり、平成15年度末から198.7万人増加している。

また、同白書によると、平成25年度の社会保障給付費に占める高齢者関係給付費の割合は68.4%で、75兆6,422億円である。

このような状況は、様々な視点・分野から指摘され情報提供等がなされているので、高齢者ばかりでなく広く国民の関心事となっている。そして、国をはじめ各自治体は、状況改善に向けた各種の施策を展開している。高齢になっても、介護を必要とせず健康に日々を過ごせる健康づくりは、高齢者本人だけでなくその家族にとっても大変重要な課題になっていると、筆者は考えている。

私たちが居住する市町村は、様々な健康増進事業を推し進めているが、私たちはその期待に応えるだけの知識や実践力を持ち合わせているだろうか。保健体育の教員であった筆者とすれば、健康の維持増進に関する基礎的な知識や実践力を子どもたちが身につけることができるよう指導し取り組んできたはず(つもり)であるが、その思いが結果に結びついていたのか正直自信は

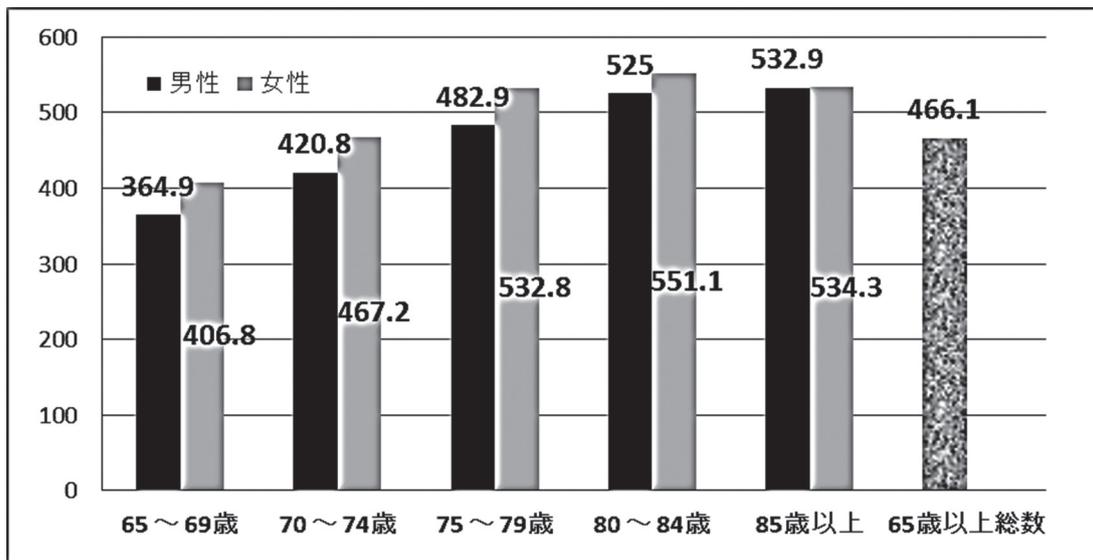


図1. 65歳以上の高齢者の有訴者率(人口千対)<sup>1)</sup>

ない。保健学習が、健康的な生活を送るための行動実践に繋がることを期待できるのか、加えて、保健体育の教員として保健分野の授業実践のあり方に何か課題意識を持つことが必要なのか、考察を試みた。

してとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。』<sup>2)</sup>であり、『保健については、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視し、健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、小学校においては、現行の内容を踏まえて、「毎日の生活と健康」、「育ちゆく体とわたし」、「心の健康」、「けがの防止」及び「病気の予防」の五つの内容とした。』<sup>3)</sup>と説

## Ⅱ. 「保健」の目的について

### 1. 小学校での体育科の目標

小学校での体育科の目標は、『心と体を一体と

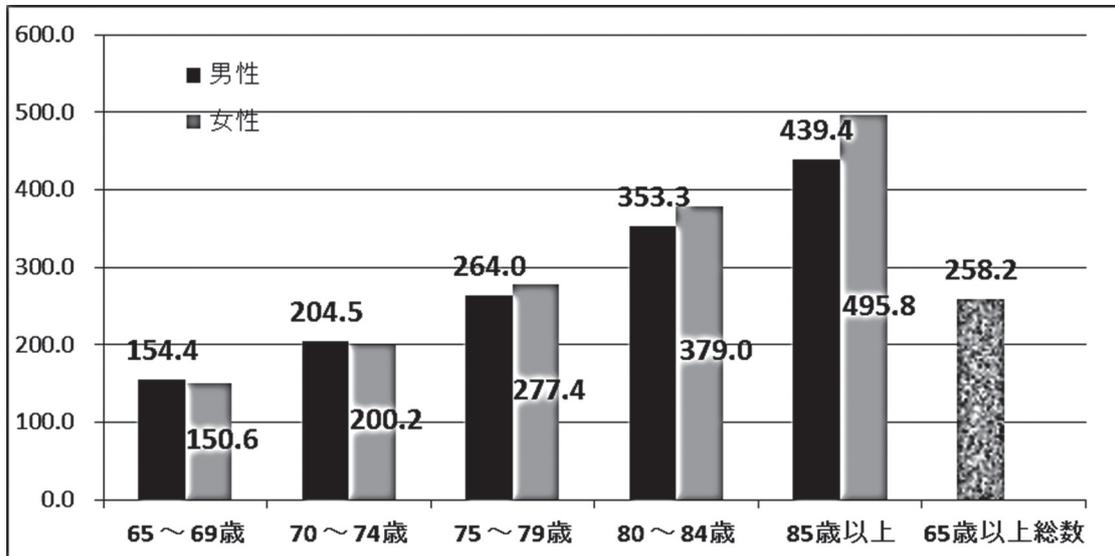


図2. 65歳以上の高齢者の日常生活に影響のある者率(人口千対)<sup>1)</sup>

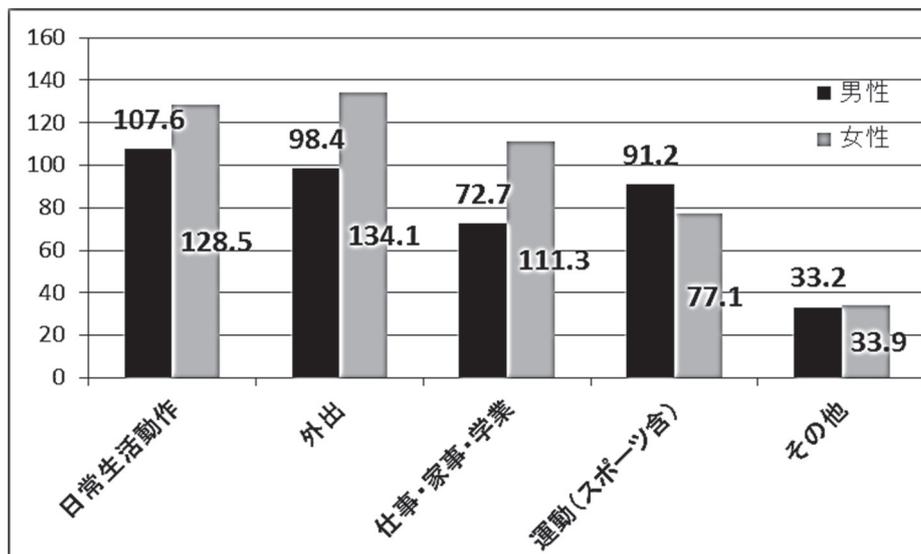


図3. 65歳以上の高齢者の日常生活に影響のある者率(複数回答)(人口千対)<sup>1)</sup>

明されている。

抽象的な言い方になってしまうが、「健康とは何か、健康に過ごすためにはどうすればよいのか」ということについて考えるきっかけを与えることが狙いであり、自分たちの体の成長や心の発達、病気等に関する基礎的な知識を身につけることが、小学校の保健の目標であると筆者は考えている。

## 2. 中学校での保健体育科の目標

中学校での保健体育科の教科の目標は、『心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。』<sup>4)</sup>とされており、保健分野についてはその目標を、『個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。』<sup>5)</sup>としている。

中学校では、「健康」は体だけの問題ではなく、環境や社会情勢などの様々な要因が複雑に絡み合っていることを理解し、さらに、どんなに健康に留意をしても健康を害してしまうことがあること、もし健康を害してしまったらどうするのかといった面まで学びを深め、健康な生活を送るための基本的な知識を身につけることが中学校の保健の目標であると筆者は考えている。

## 3. 高等学校での保健体育科の目標

高等学校での保健体育科の教科の目標は、『心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保

持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。』<sup>6)</sup>とされており、保健の目標は、『個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。』<sup>7)</sup>である。

小学校及び中学校での保健学習は、同じような流れで学習できるよう内容構成がされているが、高等学校では「生涯」「社会」といったことを強く意識することを促すような内容構成になっている。

時代とともに様々なものが変化をするが、健康に対する考え方やそれを支える考え方も例外ではないと思う。自身の人生と社会とを一体として捉え、健康的な生活、健康的な環境づくりに関する知識と実践力を育てることが高等学校の保健の目標であると筆者は考えている。

## 4. 保健分野の学習に求められる成果

ここまで文部科学省の「小学校学習指導要領解説 体育編」、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」をもとに保健分野の取り扱いについて確認の意味で触れ、その目標について筆者の考えを記してきたが、高等学校への進学率が98%<sup>8)</sup>であることを考えると、保健分野の学習の成果として、高等学校卒業時には、自身の生活習慣を分析し、心身の健康の維持増進に繋がる改善に取り組めることができる資質能力と実践力を身につけていることが期待される。筆者自身は、そのような学習成果につながるよう意識し保健分野の教育実践に取り組んでいたが、日々を比較的健康的に過ごしている子どもたちの健康問題に対する関心・意識は低く、生涯をとおして健康的に過ごすために保健分野の学習に意欲的に取り組んでほしいという教員側の願いとは必ずしも一致していないと感じていた。そこで、現

状はどうか、Ⅲで本学の学生に実施したアンケート結果から、保健分野に関する授業意識の分析を行った。

### Ⅲ. 「保健学習」の実状 ～学生へのアンケート結果から～

本学の学生に対してこれまで受けてきた保健学習に関する意識調査アンケート<sup>資料1)</sup>を実施し、その結果から保健学習の実状を分析した。

なお、アンケートは、教職課程を履修している3・4年生67名を対象に実施、その内「保健体育及び保健」(以下保健体育という)の教育職員免許状取得を目指す学生は30名(44.8%)であった。

なお、小学校5年生(以下小5という)、中学校1年生(以下中1という)及び高等学校3年生(以下高3という)のデータについては、「保健学習推進委員会 平成25年度報告書「中学校の保健学習を着実に推進するために」平成25年9月」<sup>9)</sup>(以下「保健学習推進委員会」という)から引用したデータである。

#### 1. アンケート結果の分析・考察

##### 1) 保健の学習は好きでしたか(図4)

「そう思う」15.3%、「そう思わない」11.9%であり、「そう思う、どちらかといえばそう思う」50.9%、「そう思わない、どちらかといえばそう思わない」42.4%という結果である。

好き、嫌いが、二分されている状況に近いと言える。

「そう思う」が小5では17.8%であるが、中1で8.7%と半減しており注目すべき点であるが、本学学生と小5のデータの差は2.5%と小さい。

大学生になった時点で判断が分かれる内容の質問項目ではないので、保健学習に対する意識の高い保健体育の教育職員免許状取得を目指す学生が、アンケート回答者の44.8%に上る本学

学生の特徴が出ているということが言えるのではないか。

##### 2) 保健の学習は楽しかったですか(図5)

「そう思う」15.3%、「そう思わない」13.6%であり、「そう思う、どちらかといえばそう思う」が47.5%、「そう思わない、どちらかといえばそう思わない」が50.9%という結果である。

「楽しい」「楽しくない」が、ほぼ半々という結果である。

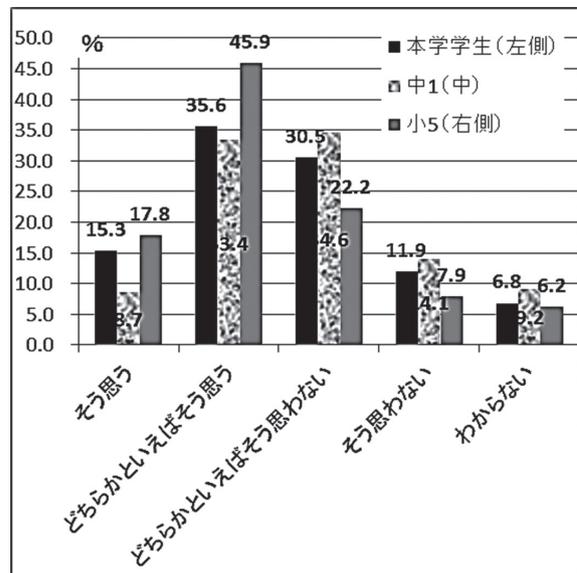


図4. 保健の学習は好きでしたか

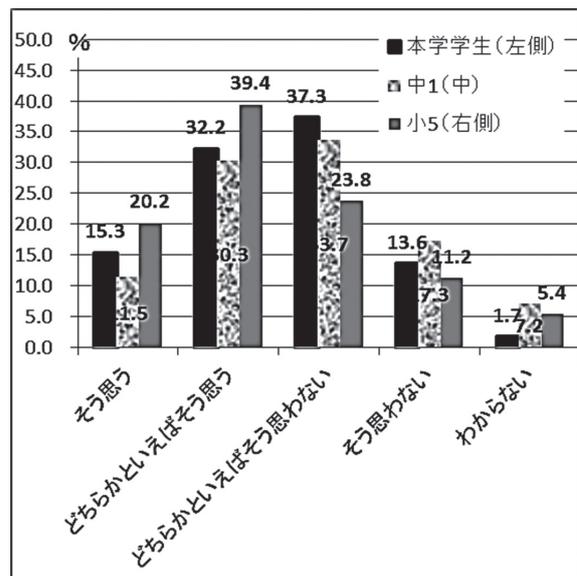


図5. 保健の学習は楽しかったですか

また、「そう思う」が小5では20.2%であるが、中1で11.5%とほぼ半減しており、1)の質問項目同様注目すべき点である。

### 3)保健の学習は、健康な生活を送るために重要だと思いませんか(図6)

「そう思う」59.3%が、「そう思わない」0%を大きく上回っている。「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合わせると、98.3%と100%近い高率である。「そう思わない、どちらかといえばそう思わない」は1.7%であり、保健学習の重要性が認識されていると判断できる。

また、「そう思う、どちらかといえばそう思う」が小5で90.8%、中1で85.2%であり、やはり、保健学習の重要性は認識されていると判断できる。

### 4)保健の学習をすれば、健康な生活ができるようになると思いませんか(図7)

「そう思う」27.1%が、「そう思わない」5.1%を大きく上回っている。また、「そう思う、どちらかといえばそう」を合わせると、77.9%であり、保健学習は健康の維持増進に役立つと考えていると推察される。しかし、積極的な受け止め「そ

う思う」は、27.1%と4人に1人程度であり決して高率と判断できる結果ではない。

また、「そう思う」が小5では54.5%で、中1で41.2%、「そう思う、どちらかといえばそう」は小5で88.6%、中1では82.0%と本学学生に比べると肯定的な受け止め結果であり、1)、2)の質問項目の結果とは違う傾向である。

推測の域を出ないが、保健体育の教育職員免許状取得を目指す学生がアンケート回答者の44.8%に上ることから、大学での学びを通して保健学習の場だけではなくそれ以外の場でも健康に関する情報に触れる機会が多くなり、結果として、保健学習で得られた情報の占める割合や位置づけが低下した結果ではないかと考える。

### 5)保健で学習したことを、自分の生活に生かしていますか(実践できていますか)(図8)

「していない」22.0%が、「している」18.6%を上回っているが、大きな差はない。「している、どちらかといえばしている」が66.1%、「していない、どちらかといえばしていない」が30.5%であり、およそ3人に1人は、保健学習で学んだことを、日常生活に活かしていないことになる。

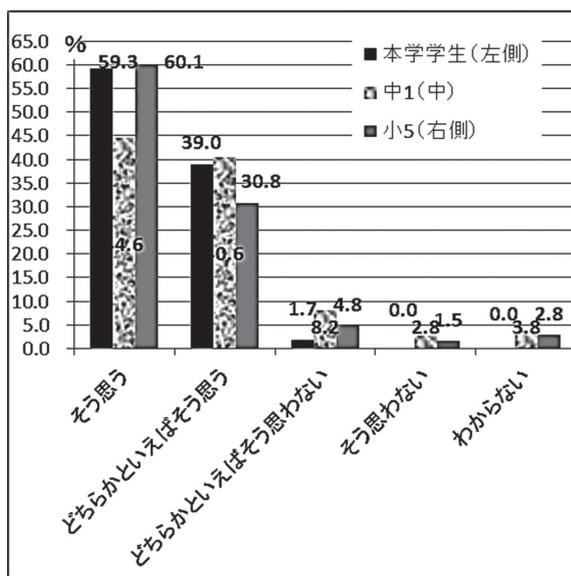


図6. 保健の学習は、健康な生活を送るために重要だと思いませんか

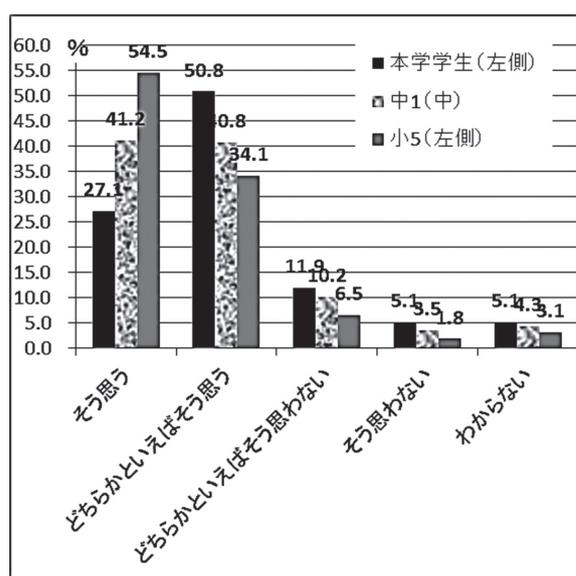


図7. 保健の学習をすれば、健康な生活ができるようになると思いませんか

また、図9は、同様の質問項目の「保健学習推進委員会」<sup>9)</sup>のデータと本学学生のデータをグラフ化したものであるが、小5で70%を超えていたものが、中1になると50%と大きく減少している。本学の学生は66.1%と小学生に近い結果であり、1)のアンケート項目の考察同様、保健体育の教育職員免許状取得を目指す学生が、アンケート

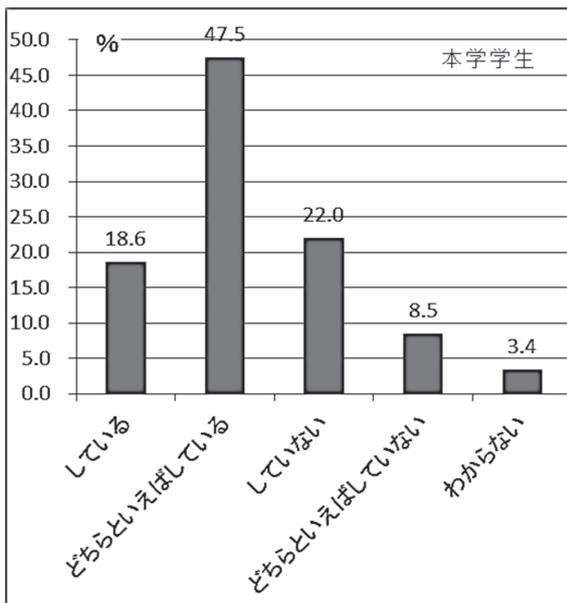


図8. 保健で学習したことを、自分の生活に活かしていますか(実践できていますか)

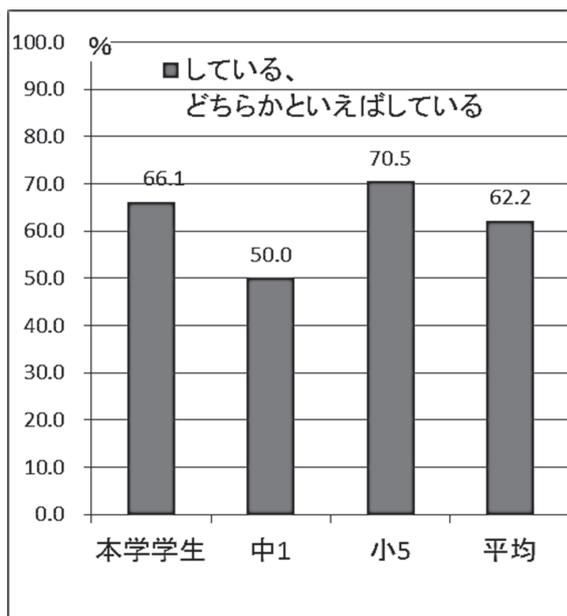


図9. 保健で学習したことを、自分の生活に活かしていますか(実践できていますか)

回答者の44.8%に上る本学学生の特徴が出ているということが言えるのではないかと。

## 2. アンケート結果の分析・考察のまとめ

### 1) 学生のアンケート結果から

学生のアンケート結果から以下の4点に集約できる。

- ①2人に1人は、保健学習は好きではない傾向である。
- ②2人に1人は、保健学習の楽しさを感じていない傾向である。
- ③健康な生活を送るために保健学習は重要であるとほぼ全員が感じているが、保健学習が健康な生活につながると考えている者は8割強に留まっている。
- ④3人に1人は、保健学習で学んだことを、日常生活に活かしていない。

上記の4点を踏まえると、小学校・中学校・高等学校と12年間学んだ保健学習の成果が、その目標である健康的な生活を送るための行動実践に繋がっているかということ、まだまだ不十分と言わざるを得ない。

### 2) 保健体育の教員を目指す学生に向けて

Ⅲの2.の1)から保健体育の教員を目指す学生は、以下の2点を念頭に置き学習する必要がある。

- ①重要だと感じている保健学習で「学んだことが実践できない」のは何故か。
- ②保健の学習に「楽しさを感じない」のは何故か。

2点ともその背景や理由を、別途調査し分析をすることも必要ではあると考えるが、「保健学習授業推進委員会」<sup>9)</sup>のデータから筆者が作成した図10、図11からは、保健体育教員が保健の学習を担当するようになる中学生時代にⅢの2.の1)で記した①・②の傾向が強くなるのが推測できることから、保健体育の教員の保健学習の進め

方に、その大きな一因があるのではないかと推察される。

従って、保健体育の教員を目指して勉強している今、「楽しく意欲的に保健学習に取り組み、将来その知識を実践できる能力を身につける保健学習の展開」について研鑽をつむことが重要であり、教職課程を置いている大学側には、学生にそのような学びを進めることが大切であることを気づかせ、意識させることが必要であろう。

学生が保健学習の授業力をつける主な機会は、模擬授業と教育実習である。しかし、最も有益な機会である教育実習期間は、多くの学生が3週間と短期間であり、模擬授業を扱える時間数も残念ながら決して十分とは言えない状況ではあ

るかもしれないが、学生への指導を通して、保健学習の目的を果たすためには「保健学習の展開」のあり方が重要であることを意識づけし、学習に取り組ませていく必要がある。

また、過去には「雨降り保健」(雨が降り、体育の実技ができない時に保健を行う。)と言われた状況もあったと聞く。今はないと信じているが、このような状況は、小学校から高等学校卒業まで必修となっている保健の授業を保健体育の教員が軽視していると思われかねない。保健体育の教員を目指す学生に、保健体育の授業は決して気晴らしやレクリエーション的な感覚で行うものでないことを明確に、着実に意識づけしなくてはならない。

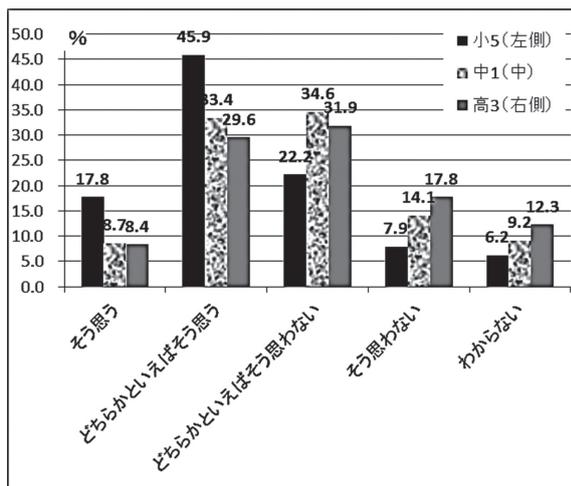


図10. 保健の学習が好きだ

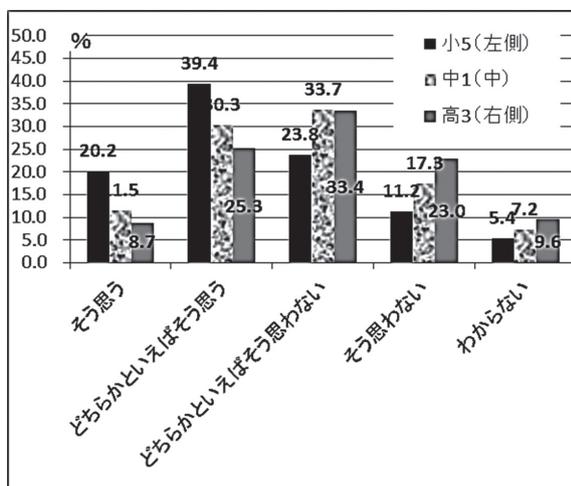


図11. 保健の学習は楽しい

## IV. まとめ

「はじめに」では、日々を健康に過ごせる健康面の課題について、高齢化社会の観点から記したが、生活様式の変化により、運動不足、食生活の乱れ、アレルギー疾患等々、複雑で多様な健康面の課題が出現し、子どもたちにとっても、生涯を通して健康に過ごすためにどのような取り組みが必要なのかを理解し、実践力を身につけることが重要な課題となっている。その意味では、学校における保健学習は、極めて重要な役割を担っており、また、担っていかなくてはならないものであると考える。

しかし、Ⅲの2.の1)で記したように保健学習の成果は不十分で、その目標を達成できてはいないと、今回の意識調査の結果からは考えざるを得ない。

保健学習の重要性を認識し、保健学習で学んだことを生涯にわたり日々の生活の中で実践していくことを念頭に置いた保健体育の教員の意識と授業実践の姿勢が子どもたちに伝わり、生涯をとおして心身ともに健康で豊かな人生を送ることに繋がることを期待したい。

最後に、参考までに各校種(小・中・高)の保健学習が、年間指導計画にどのように位置づけられて実践されているのか紹介するとともに、平成32年度から小学校で全面実施がスタートし、順次、中学校、高等学校で実施されていく新学習指導要領での保健体育科の取り扱いについて触れる。

各校種(小・中・高)の保健学習の年間指導計画への位置づけについて、本学の近隣の学校の状況は、小学校では、3学期(12月、1月、2月)に集中的に配置し実施している学校が主であった。中学校でもやはり集中的に配置し実施している学校が主であったが、実施の時期は、6月と10月を中心にその前後の月に実施している状況であった。高等学校では、1・2年次に週1時間、通年で実施している学校が主であった。小学校、中学校では学校行事を考慮しながら、体育実技の実施場所の環境(確保)も考慮して保健学習の指導計画を立てていることがうかがえる。

新学習指導要領においても保健分野の学習目標は、現行の学習指導要領と基本的には変わらないと筆者は受け止めているが、新学習指導要領では各教科において育成を目指す資質能力を、①「知識及び技能」②「思考力、判断力、表現力等」③「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で明確化し、それに沿う形で各教科の目標が明示されている<sup>10)</sup>。保健体育科の目標についても、前文と3つの柱に沿う内容で具体的目標が構成されている<sup>10)</sup>。保健体育科の教員には、それらの目標を達成するための深い学びにつなげていく授業展開が求められることになる。

蛇足ではあるが、筆者が個人的に注目したのは“他者に伝える力を養う”という文言が、新学習指導要領と現行学習指導要領の比較対象表<sup>10)</sup>に小学校・中学校とも明記されていることである。今まで以上に、発信力の向上を念頭に置いた授業実践を求めていると感じている。

終わりに、執筆にあたり、資料収集等にご尽力、

ご協力をいただいた教職支援センターの石井良治先生、高山雪先生に深謝申し上げます。

## 文献

- 1) 内閣府 平成28年度版高齢社会白書 2018.01.26  
13:00  
[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html)
- 2) 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省  
平成20年8月 P.9
- 3) 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省  
平成20年8月 P.13
- 4) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省  
平成20年9月 P.15
- 5) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省  
平成20年9月 P.148
- 6) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編  
文部科学省 平成21年12月 P.11
- 7) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編  
文部科学省 平成21年12月 P.111
- 8) 文部科学省資料 数字で見る高等学校 2017.05.29  
14:00  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2011/12/15/1313846\\_02.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/_icsFiles/afieldfile/2011/12/15/1313846_02.pdf)
- 9) 保健学習授業推進委員会 平成25年度報告書  
「中学校の保健学習を着実に推進するために」  
2017.05.30 14:10  
[http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook\\_H250010/H250010.pdf](http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H250010/H250010.pdf)
- 10) 新学習指導要領(平成29年3月公示) 2018.01.30  
15:10  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1383986.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm)

## 資料

## 1) アンケート用紙

## 保健学習に関する意識調査アンケート用紙

皆さんはこれまで小学校では体育科の保健領域で、中学校では保健体育科の保健分野で、高等学校では保健体育科の科目保健で保健学習に取り組んできています。その保健学習に関する、以下のアンケートにお答えください。

各質問とも、1～5の選択肢の中から1つを選び、該当する数字に○印をつけてください。

問1 保健の学習は好きでしたか。

- 1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない  
4.思わない 5.わからない

問2 保健の学習は楽しかったですか。

- 1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない  
4.思わない 5.わからない

問3 保健の学習は、健康な生活を送るために重要だと思いますか。

- 1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない  
4.思わない 5.わからない

問4 保健の学習をすれば、健康な生活ができるようになると思いますか。

- 1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない  
4.思わない 5.わからない

問5 保健で学習したことを、自分の生活に生かしていますか(実践できていますか)。

- 1.している 2.どちらかといえばしている 3.どちらかといえばしていない  
4.していない 5.わからない